



K.C.News

京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会

京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375番地 府立総合社会福祉会館5階 京都府社会福祉協議会

発行人 森 昇



▲ 五条坂 陶器まつりの様子
～京都知福協加盟施設も参加～

- ◆ 会長挨拶 1
- ◆ 平成22年度全国知的障害者
関係施設長等会議に参加して 2
- ◆ 平成21年度京都知的障害者
福祉施設協議会収支決算書 3
- ◆ シリーズこんには 4
- ◆ シリーズがんばっています 5
- ◆ 平成22年度会議・研修・行事案内 6
- ◆ 文化部会より 7
- ◆ 行事部会より 7
- ◆ 広報部会より 8
- ◆ 平成22年度京都知的障害者
福祉施設協議会役員紹介 8

大転換の一端を担う者として

京都知的障害者福祉施設協議会

会長 森 昇



例年になく猛暑の夏でしたが、皆様お変わりありませんでしたでしょうか。さて、ご承知のとおり、障害者自立支援法を廃止して新たに「障がい者総合福祉法(仮称)」を制定し、「国連障害者権利条約」の批准に必要な国内法の整備を行うとの方針に基づき、障がい者制度改革推進会議と総合福祉部会が議論を進めてきました。一定の方針が固まってきたことから、総合福祉部会のもとに「作業チーム」を設け、本年10月より、「法の理念・目的」「障害の範囲・選択と決定」「支援体系」「地域移行」「地域生活資源整備」「利用者負担」「報酬体系」等について議論を開始し、今年度末に提案することとなりました。

主権や規制改革などが検討されると思われる、補助金の一括交付金化や設置主体規制の見直し、事業所の設置基準の二層の緩和等が示される可能性も秘めています。

さらに、気になる動きとして、7月30日に厚生労働省障害福祉課が都道府県宛に発出した「障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス等事業所への移行促進について」という文書があります。

この文書は、「新体系への移行が低調なため、様々な移行支援策があるので、都道府県で移行を促進されたい」というもので、新政権は障害者自立支援法を廃止するとしているが、新たな福祉制度の方向は「地域生活の実現とインクルーシブな社会の構築」であり、「新体系の理念と方向性は一致する」との論理を大胆に展開し、「丁寧にも、2月15日開催予算委員会での長妻厚生労働大臣の「移行を推進する」との答弁を添付しています。

しかし、何故、新法を目前にして移行が必要なのか明確でなく、官僚は介護保険制度との統合を前提とする自立支援法を捨ててはいないとの疑念も浮かび、新体系移行により多くの施設が第一種から第二種社会福祉事業に変わることも、社会福祉法人制度の見直しに好都合と見ているかもしれません。

いずれにせよ、いよいよ我が国の障害福祉制度が大転換する時を迎えようとしており、我々も、その大転換の一端を担う者として、今後も精一杯の努力を重ねていかねばならないと思いを新たにしているところです。

また、本年6月に発足した新内閣は、「強い経済」と「強い財政」に加え、「強い社会保障」により「少子高齢社会を克服する日本モデル」を提示し、「一人ひとりを包摂する社会」の実現を目指すとの画期的な方針を示しましたが、その後の参議院選挙で政局が「転換し、現在、見通しの立たない状況となっています。」

一方、「新しい公共」円卓会議を現内閣も引継いでおり、厳しい財政状況の中での「小さな政府による高い福祉」を志向し、今後とも地域

平成22年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して

ベテスタの家 施設長
中西昌哉

去る、7月5日～6日、東京国際フォーラムにて、全国施設長等会議が開催されました。

今回は昨年の政権交代以降、障害者自立支援法の廃止と、次なる「障がい者総合福祉法（仮称）」の検討に向けた議論がすすんでいる中での開催でした。また福祉協会としては新会長・中原強氏の選出がされた後の全国規模の集会でもありました。

京都からは20名の方々が参加されたようです。会場で見かけた何人かの施設長さんには一言の感想をお願いしてみました。一寸、ツイッター風に並べてみたいと思います。

▼今回、はじめて全国施設長等会議に参加しました！東京国際フォーラム満席！迷走と混乱…。措置・支援費・障害者自立支援法・障がい者総合福祉法！今日の障害者施策の軸になる障害者自立支援法の廃止が確定したものの事態は不透明。現場は、新しい制度について行くのが精一杯！でも、こんな時、また、こんな時だからこそ！ ㄥㄥ明日があるㄥあしたがあるㄥ

（あしたーる工房施設長 寺阪和博氏）

▼障がい者総合福祉法（仮称）を制定するたに様々な議論が行われているが、理念に見合った財源を確保できないと、結局は絵に書いた餅になってしまうのではないかと感じた。

（るりけい寮 寮長 奥村研也氏）

▼新しい障がい者制度の推進メンバー55名に知的障害関係者があまり入っていない事は、改めて大きな問題であると認識させられました。また、厚生労働省の課長中島さんの言葉で「しみじみ、わくわく」この二つの言葉が印象に残った。今一度、自分の仕事・生活、もつと突き詰めると人生を見直さなければいけないと感じました。今回3年振りに参加して満足できました。

（京都市うずまさ学園施設長 谷村敏幸氏）

▼参加者が年々少なくなってきたように感じるのには気のせいでしょうか？印象に残ったコトバ「生活介護」という名称でないと予算がとれなかった。社会参加より「介護」という重いコトバを使わないと財源が保障されませんよ。「日中活動は介護だけではないですよ」（洛西ふれあいの里授産園施設長 赤井和子氏）

以上です。ありがとうございました。

それでは参加させて頂きました私自身の感想を述べさせて頂きます。まずは新会長、中原強氏は機関誌「さぼーと」5月号の巻頭文には「今後の活動に向けて」という文章を掲載されておられるものの、本来ならこの絶好の機会でも御自身のお考えや会長としての方針を述べられるべきではなかったでしょうか。なぜならば行政説明では厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課の中島課長が踏み込んだ発言をされたからです。私が書き残したメモには「入所施設は否定しないが、これまでのような入所機能は必要なくなってくる」「新体系移行はホップ・ステップである。平成25年のジャンプに備えて済ませておいてほしい」という具合です。国としてのこれらの見解に対し、協会としての今後に向けた態度はどういったものでしょう。また各々の施設や現場の職員はこれをどのように受けとめるべきでしょうか。

休憩時間、会場内の書籍売り場で、隣の方が「生活介護の本はないですか」と尋ねられていました。「ないですね。」と答えた店主の表情は、それは皆さん方施設長が考えられることではと言わんばかりでした。誰も教科書的な答えなどない中で、問われているのは私達、施設長自身の姿勢ではないでしょうか。

2日目は第4分科会に参加いたしました。

一言で言えば、大変刺激的でした。「テーマは安心できる地域生活支援のあり方」でしたが、内閣府障がい者制度改革推進会議担当室長の東俊裕氏やDPI日本会議事務局長の尾上浩二氏は、いずれも「権利の主体」としての障がい者本人の自己決定が基本だと主張されていました。これらは何を意味しているのでしょうか。どうやら今、これらの話題が最も熱いのです。施設職員もこの議論の結果は避けて通れません。でも、日々の支援の現場でどれ程、このようなことが話題になっているでしょうか。私達は、全く知らない、関心もないでは済まされたいと思います。それは利用者、本人の笑顔につながっているのですから。しっかりと情報を集めて、問題意識を高めていかなければと感じさせられた会議でした。



平成21年度

(平成22年3月31日現在)

収支決算書

京都知的障害者福祉施設協議会

収入総額	8,671,813円
支出総額	7,823,687円
差引残額	848,126円

(残額は次年度へ繰越)

◆収入の部

(単位:円)

大区分	中区分	予算額	決算額	差引増△減額	摘要(積算内訳)
会費収入		7,495,425	7,524,700	29,275	20,000円+(550円×定数)
	1.会費	7,495,425	7,524,700	29,275	全国3,173,000、近畿188,000、京都4,163,700
補助金収入		215,000	207,400	△ 7,600	
	1.京都市府	90,000	90,000	0	クラシックコンサート補助金90,000
	2.京都市	0	0	0	
	3.日本知福協	125,000	117,400	△ 7,600	地方会助成(還元金)
寄付金収入		100,000	297,200	197,200	
	1.寄付金収入	100,000	297,200	197,200	
雑収入		5,574	1,141	△ 4,433	
	1.雑収入	5,000	1,003	△ 3,997	預金利息等
	2.事業振興基金利息収入	574	138	△ 436	事業振興基金利息収入
繰越金		641,372	641,372	0	
	1.繰越金	641,372	641,372	0	
収入合計		8,457,371	8,671,813	214,442	

◆支出の部

(単位:円)

大区分	中区分	予算額	決算額	差引増△減額	摘要(積算内訳)
分担金		3,657,800	3,665,700	7,900	
	1.日本知福協会費支出	3,166,700	3,173,000	6,300	事務局経由分
	2.近畿施設協議会分担金支出	188,000	188,000	0	@2,000×94(4月時点)
	3.府市施設協議会分担金支出	293,100	294,700	1,600	府施設協 232,000 市施設連協 62,700
	4.京都府精神保健福祉協会会費支出	10,000	10,000	0	
事務局費		2,400,000	2,356,500	△ 43,500	
	1.職員雇用費	1,050,000	1,050,000	0	事務委託費(京都府社協)
	2.役員費	400,000	389,038	△ 10,962	郵送料、振込手数料、電話代、切手代
	3.需用費	200,000	193,602	△ 6,398	事務用品、用紙代
	4.備品費	10,000	0	△ 10,000	
	5.旅費	50,000	40,540	△ 9,460	事務局等旅費
	6.会議費	650,000	649,570	△ 430	役員旅費 資料印刷代等
	7.慶弔費	20,000	20,750	750	
	8.雑費	20,000	13,000	△ 7,000	支援機構会費 10,000 他
部会活動費		1,870,000	1,585,707	△ 284,293	
	1.行事部会活動費	500,000	411,195	△ 88,805	球技大会その他
	2.広報部会活動費	600,000	525,396	△ 74,604	「知福協だより」等
	3.福利厚生部会活動費	0	0	0	※休会中
	4.文化部会活動費	770,000	649,116	△ 120,884	京都府クラシックコンサート助成金 90,000円を含む
委員会費		270,000	91,155	△ 178,845	
	1.予算対策委員会費	20,000	24,718	4,718	
	2.研修委員会費	150,000	41,720	△ 108,280	
	3.調査研究委員会費	20,000	24,717	4,717	
	4.政策委員会費	80,000	0	△ 80,000	
種別分科会費		230,000	124,487	△ 105,513	
	1.児童施設分科会費	20,000	27,330	7,330	部会・分科会旅費
	2.通園施設分科会費	20,000	27,330	7,330	部会・分科会旅費
	3.更生施設分科会費	30,000	27,330	△ 2,670	部会・分科会旅費
	4.授産施設分科会費	30,000	15,167	△ 14,833	
	5.通勤寮施設分科会費	0	0	0	
	6.福祉工場分科会費	0	0	0	
	7.グループホーム・ケアホーム等分科会費	70,000	27,330	△ 42,670	部会・分科会旅費
	8.相談支援事業等分科会費	20,000	0	△ 20,000	
	9.就業・生活支援センター等分科会費	20,000	0	△ 20,000	
	10.居宅介護事業等分科会費	20,000	0	△ 20,000	
積立金支出		574	138	△ 436	
	1.事業振興基金積立金支出	574	138	△ 436	
予備費		28,997	0	△ 28,997	
	1.予備費	28,997	0	△ 28,997	
支出合計		8,457,371	7,823,687	△ 633,684	

シリーズこんにちは 広報部員施設訪問記

京北やまぐにの郷

訪問者：岸上昌広
(福知山学園三和翠光園)



▲ご利用者の作品の数々



▲委託作業中のご利用者の方々

今回は、京北やまぐにの郷におじゃま致しました。京都の右京区京北に入り、美しい河を越え、緑豊かな自然の中を自動車を走らせると、その緑の中に重なる様にグリーン屋根の建物が見えてきました。京北やまぐにの郷です。玄関に入る前にご利用者の方々の元気の良い『こんにちは』の挨拶があり、こちら自然と挨拶が大きな声に。玄関に入ると、優しい雰囲気のある廣幡施設長さんに迎えて頂きました。

その後はご利用者の活動風景と生活の1ページを見学させて頂きました。ここ、京北やまぐにの郷では様々な生活支援、労働(作

業)援助が行われています。木工作業、箱折り、箸入れ等の下請け作業、ネジ4本入れの自具作成、作品に繋がるさおり作業、機織り、椎茸作業、他には桂川大野にある公衆トイレ清掃の外部委託の引受けもあり毎日熱心に取り組んでおられます。

木工作業では沢山の作品がご利用者の手により創造されていました。それも、ただの作品ではなく、体と環境に優しい作品です。赤ちゃん安全に遊べるようにと、ニスを取って塗らない工夫や、やすりを当てる事で作品に触れる方への肌に優しい配慮がなされていました。また、ご利用者が、どこまでやすりで削って良いかを分かりやすくする工夫もされていました。まず木材に色を塗り、その後やすりで削って頂き、その後、木材の色が無くなるまで削れば一先ず完了。このような具合にご利用者の事を良く理解されている配慮があり、興味深く見学させて頂きました。他の作品としてはイラスト入りの巾着袋がありました。ここにはご利用者の描いたイラストがプリントされており、とても可愛い仕上がりに。それらの作品が近くの道の駅でも販売されており、私も取材後、立ち寄った際に発見致しました。よろしければ、お近くを通られたついでにでもいかがでしょうか。地域の野菜等と一緒に販売されています。道の駅に鮮やかな彩りを加えています。

今の季節ですと、鮎釣りをする方々がちらほら見られる桂川。その桂川を隣に臨む公園ではご利用者と職員さんが外部委託された

公衆トイレの清掃をしておられました。本日は周辺の草引きを熱心に行っておられました。草引きもちゃんと根っこから抜けるように、専用の道具を使用しておられました。又、掃除する場所が分かりやすいように、掃除区間を枠で囲い作業を集中して進みやすくするよう色々な工夫をされていました。また地域の方々との交流もありました。

生活の憩いの場は大きく一つのスペースに作るのではなく、ご利用者の性格に合わせ生活スペースを分け、それぞれのご利用者が心地よく生活できる空間作りを提供していただきました。また、その空間の一つにピアノが置いてありました。良く演奏されるご利用者もおられました。曲のリストを見せて頂くと『おもいでのアльバム』『琵琶湖周航の歌』など幅広いパートリー。是非聴いてみたいですね。

ご利用者の方々の楽しみの一つと言えば夏祭りがありますね。勿論京北やまぐにの郷でも夏祭りが開催され、毎年盛り上がりを見えています。ハンドベル隊の活動も好評だったとの事でした。また7月31日には地元の高齢



者施設の夏祭りに参加され、楽しまれました。10月4日には15年参加し続けている地区の運動会にも『チームやまぐにの郷』として参加されます。楽しい事が目白押しですね。

今回の『こんにちは』の訪問では、ご利用者と職員さんの様々な活動や生活の1ページを拝見し、楽しかった事もあり、あつと言う間に時間が過ぎていきました。ご利用者の暖かい笑顔と職員さんの暖かくも熱心な支援がとても印象的でした。また今回、お忙しい中、取材を快く受け入れて頂いた京北やまぐにの郷ご利用者と職員の皆様、本当にありがとうございました。また、ここまで読んで頂いた皆様、本当にありがとうございました。



機織作業中の1コマ

シリーズがんばっています
知的障害児通園施設『ポッポ』

一人ひとりの確かな歩みを大切に

園長 野村 公子

▲手作りかばんで金魚すくい屋さん遊び

「汽車のように、急がす慌てずゆつくりと景色を楽しみながら進んで行こう」という思いを込めて名付けられた『ポッポ』のはじまりは、昭和47年(当時の名称は「ポッポ教室」)です。最初は京都市の単費事業、その後、心身障害児母子通園事業、児童デイサービスを経て、平成16年に知的障害児通園施設になりました。開所以来、通園施設になった現在も保護者と子どもが「一緒に通う親子通園の形態をとり(京都市独自の方式)、子どもの療育と同時進行で保護者の子育て支援を行っている施設です。」

京都五山の送り火の一つである『妙法』の妙法の山のもとと左京区下鴨に、昨年春に完成した『北山ふれあいセンター』の竣工と同時に北区から移転しました。まっさらな新しい建物、そして「小さな子どもにも職員にも使いやすいように」と工夫した設備の中で、遊ぶこと

大好きな職員子どもたちと、期待と不安を胸に子育てに奮闘するお母さんたちとで賑やかな毎日を送っています。

「子どもの療育」

療育は、保育園・幼稚園に就園している子どもを対象とした『併行通園グループ』(週1回通園・2グループ)と、未就園児対象の『親子通園グループ』(週3日通園・3グループ)を中心に運営しています。

親子通園グループは、初めて集団の場に入る1〜2歳の子どもの中心で、多くの遊びが初体験ということがほとんどです。砂や水などの素材で遊ぶのも、毛布ブランコや低い滑り台、ボールプールなどの遊具も初めて。砂遊びで手についた砂をまじまじと眺めて「これ何だろう??」と疑問と興味いっぱい表情。そんな姿がいろいろな遊びで見られます。まずは職員が遊んで見せたり一緒にやってみたりしながら、その遊びのおもしろさを知ることから始まり「何かかな?」「どうしようかな」そんな気持ちも受け止めつつ、遊びへの興味が高まるように展開していくと、次第に「これおもしろいな」「もっとやりたいな」という気持ちも生まれ、好きな遊びになっていきます。そして今度は「これしてほしいな」という子ども自身から発信される思いが見えてきます。その積み重ねの中で、自分から笑顔を向けた職員を呼ぶ姿が増えていく様子から、職員に対し「楽しいことをしてくれる人」という期待や「わかってもらえる」という安心感が生まれ、「一緒に遊びたい」と人に向かう気持ちに繋がって

いるのが感じられます。

併行通園グループ

には、概ね2歳から年長の子どものが在籍しています。日頃「あんなことできるようになりたい」「ボクも一番になりたい」などの願いや、「やりたいけどできないかも」「言いたいけど言えない」といった悩みを抱いている子どもたちです。その心の中の矛盾に寄り添い、まずは子ども一人ひとりが楽しんで遊べることを土台に置きつつ、その悩みを子ども自身が乗り越えたいを叶えていくために必要な支援や手立てを検討して、遊びを計画していきます。

室内では、大型遊具や吊り遊具での体育遊び、粘土遊びや制作活動にクッキング、屋外では公共のバスでのお出かけ、公園の大きな滑り台やジャングルジムでの遊び、そして夏のプール遊びなどが主ですが、そこに子どもたちが夢中になれるような工夫を詰め込んでいます。大好きな遊びの二つが宝探し。好きなキャラクターからの『謎のお手紙』に書かれたヒントを手がかりに、センター全館や『法の山』などを駆け巡り『お宝』を探し当てます(お宝はその日のおやつだったり、遊びで使うアイテムだったり)。絵やマーク、読める子は文字から、次の手がかりがどこに隠されているかを一生懸命考え、自由な発想で思いついたことを目



大雨だ〜!傘に入れば大丈夫!



おっとっと、よし乗れた!体育遊び

を輝かせて主張します。誰が言ったことにも耳を傾け、みんなと一緒に解決していく過程の中で子どもたちそれぞれが『主人公』になって誇らしげな笑顔を見せてくれます。こうして遊びの中から得た自信をバネに、日々の生活の拠点である併行通園先の集団の中でも、得意になれることを見つけ生き生きと過ごしている様子を耳にすると、職員も元気が湧いてきます。

「お母さんグループ」

子どもの療育の間に、日々の子育てや子どもの育ちの様子、次の進路選択などさまざまな話題についてお母さん同士が一緒に語り合える時間を設けています。入園1年目から5年目まで、どの時期にも話したいことはいっぱい話題が尽きません。通常は療育グループごとで編成していますが、父母の会活動でグループの枠を超えた行事をしたり、進路学習会では先輩のお母さんから進路選択時の思いや子どもの姿に向き合ってきた過程などの話を聞く機会も設けています。子どもたちの様子を出しあつて、悩みや情報を共有することでお母さん同士の繋がりを深めたり、子どもに今大事にしたい関わりを確認しあいが、それぞれの子育てを応援しています。

このような取り組みを通して、ポッポの名前の通り、乗り合わせの一人ひとりがそれぞれの旅の中で経路として蓄え、確かな足取りで巣立つていけるようにと願って支援しています。



お母さんと、朝の手遊び歌

平成22年度会議・研修・行事案内

6月

全国通勤寮職員研究大会
6月19日(土)・20日(日)
開催地:大阪府

7月

全国施設長会議
7月5日(月)・6日(火) 開催地:東京都

全国グループホーム・ケアホーム研修会
7月8日(木)・9日(金) 開催地:千葉県

8月

日中活動支援部会施設長研究会議
8月30日(月)・31日(火)
開催地:千葉県

9月

京都知福協風船バレー大会
9月17日(金) 開催地:亀岡市体育館

京都知福協幼児通園施設のつどい
9月29日(水) 開催地:京都府立体育館

全国職員研究大会
9月29日(水)～10月1日(金)
開催地:和歌山県

11月

発達支援施設運営連絡協議会
全国知的障害児施設運営協議会
全国通園施設運営協議会
11月4日(木) 開催地:石川県

居宅・地域支援サービス研究大会
11月10日(水)・11日(木)
開催地:東京都

10月

全国授産施設運営研究協議会
10月7日(木)・8日(金) 開催地:青森県

京都知福協キックベースボール大会
10月27日(水)
開催地:亀岡市月読橋グラウンド

12月

全国日中活動支援部会職員研修会
(全国通所更生施設職員等研修会)
12月2日(木)・3日(金) 開催地:大阪府

京都知福協卓球バレー大会
12月3日(金) 開催地:京都市障害者スポーツセンター

近畿地区施設長会議
12月15日(水)・16日(木) 開催地:奈良県

京都知的障害者福祉施設職員研修会

2月

地域支援セミナー
平成23年2月7日(月)・8日(火)
開催地:神奈川県

近畿地区職員研修会
平成23年2月24日(木)・25日(金)
開催地:滋賀県

京都知的障害者
福祉施設協議会施設長研修会

1月

京都知福協クラシックコンサート
平成23年1月24日(月)
開催地:京都会館第一ホール

生活支援部会全国大会
平成23年1月27日(木)・28日(金)
開催地:兵庫県

※京都知福協ボウリング大会の開催日程は現在調整中です。

文化部会より

平成22年度文化部会

京都知福協文化部会長

谷村敏幸

平成23年1月24日(月)京都公会館第一ホー

ルにて、京都障害児・者親の会協議会、京都知的障害者福祉施設協議会共同開催によります「第20回クラシックコンサート」を開催する予定です。今年は、20回という記念すべき年にあたり文化部会を担当する者としても身の引き締まる思いです。しかし年々コンサートを運営するにあたり多くの課題が出てきました。ひとつは運営費の問題です。今年から京都市交響楽団さんが運営費の値上げをされます。また、京都新聞社会福祉事業団が公益財団法人に移行され、これまでいただいていた助成金についても見直される予定です。今後、毎年の参加協力金の値上げをお願いする事態となることも予想されます。

また、当日スタッフの問題があります。毎回多くのスタッフを必要としますが、それぞれの施設での引率に手がかかり、スタッフを派遣できない施設が多くあるのが現状です。知福協には、三つの部会が在り、加盟施設は必ずどこかに所属することになっていますが、現実組織機能が果たされていない状

態です。これからは、文化部会だけの運営は厳しく京都知福協の協力体制の下でスタッフを集めないといけないと思います。また、昨年はボランティアさんの確保ができなかったですが、第18回には2名のボランティアさんにお手伝い頂いたことは今後につながる足掛かりになればと思います。

国が定めた障害者自立支援法による影響や運営上の課題などで、毎年1500人も多くの利用者さんが参加されているクラシックコンサートを無くすことなく今後も続けていけるよう、京都知福協が今一度組織全体で取り組んでいけるよう頑張りたいと思います。



行事部会より

行事部会の昨今

京都知福協行事部会長

寺本眞澄

京都府全域の施設を対象に繰り広げら

れた行事！は、二世を風靡し大変意義深いものだった…と聞く知福協行事部会について、徐々に取り組み内容は変化しつつ、現在「風船バレー」「キックベースボール」「卓球バレー」「ボウリング」の球技大会と「幼児通園施設」のつどいの開催となっています。

90施設という会員数ですが昨年度の参加は「幼児通園施設のつどい」を除くと全大会で34施設、競技によっては7施設のみ、特に京都市内ブロックではボウリング大会への参加希望ゼロで中止となっています。

また開催するにあたっては、施設運営や日々の支援に汲汲としている中、要員派遣なんてとんでもない！と言わんばかりにどの行事も人手不足。参加するなら積極的に協力するように…との意見がある一方で、参加施設は利用者の引率・介助で精一杯、要員が出せるほどの余剰人員は無いよ！と悲鳴。

時代の変遷や法制度改定の下、知的障がい関係施設という枠組みで、事業体系が異なる全施設対象の行事そのものの意義は何なのか…？ 今一度、吟味検討が急がれる時

が来ているように思います。

行事部会を全体のものとして盛り立てていくのは可能なの…？ そのためにはどうすればいいの…？ 京都市内のニーズは何なの…？など、今後に向けて課題は山積みですが、兎にも角にも今年度は動き出しました。

先日7月8日に各球技大会の実行委員が一堂に会して、開催日程やおおよその企画内容についての話し合いを持っています。その後行事部会担当施設には、要員協力の要請をさせていただきましたが、まだ定数に至っていません。別途今年度の事業計画を参照していただき、利用者方の生き生きとした笑顔を見に積極的に要員参加していただきませう、何卒よろしく願いたします。



～昨年度のボウリング大会の様子～

平成22年度京都知的障害者福祉施設協議会役員紹介

〈会長〉

森 昇 (飛鳥井ワークセンター)

〈副会長〉

矢野 隆弘 (かしのき)
矢尾 和廣 (福知山学園第一翠光園)
中西 昌哉 (ベテスタの家)

〈地域連絡会〉

京都府連絡会代表 矢野 隆弘
京都市連絡会代表 森 昇

〈特別委員会〉

予算対策委員会
委員長 矢尾 和廣
調査研究委員会
委員長 塩見 正人 (福知山学園第二翠光園)
研修委員会
委員長 浅井 伊知人 (洛西ふれあいの里更生園)
政策委員会
委員長 矢野 隆弘

〈種別部会・分科会〉

発達支援部会
部長 渋谷 千鶴 (むくの木学園)
児童施設分科会
座長 脇田 宣 (白川学園)
児童通園施設分科会
座長 渋谷 千鶴
生活支援部会
部長 楠戸 良弘 (ききょうの杜)
入所更生施設分科会
座長 楠戸 良弘
入所授産施設分科会
座長 近藤 忍 (信愛育成苑)
日中活動支援部会
部長 山口 薫 (つむぎ)
通所授産施設分科会
座長 山口 薫
通所更生施設分科会
座長 三宅 州人 (障害者地域活動センター乙訓楽苑)

〈地域支援部会〉

部長 中西 昌哉
グループホーム・ケアホーム等分科会
座長 中西 昌哉
相談支援事業等分科会
座長 土橋 成人 (南山城学園総合相談支援センターういる)
就業・生活支援センター等分科会
座長 小林 仁 (なんたん障害者就業・生活支援センター)
居宅介護事業等分科会
座長 森 亮 (修光学園ディアコニアセンター)

〈事業部会〉

行事部会
部長 寺本 眞澄 (京都市ふしみ学園)
文化部会
部長 谷村 敏幸 (京都市うずまさ学園)
広報部会
部長 奥村 研也 (るりけい寮)
福利厚生部会
休会

〈監事〉

細井 宏俊 (大照学園児童部・更生部)
松井 芳子 (宇治川福祉の園)

〈従事者代表〉

渡辺 仁 (修光学園)

広報部会より

京都知福協広報部会長 奥村 研也

今年度も京都知的障害者福祉施設協議会機関紙『K.C.ニュース』を3回発刊させていただきます。基本的には8月、11月、1月の月末に発行を予定していますが、ときどきの情勢や記事の内容によって遅れることもありますので、ご了承ください。

施設、事業所における実践報告やさまざまなできごとを施設サイドで記事にして頂く企画『シリーズがんばっています』、広報部員が施設・事業所を訪問させて頂いてレポートする企画『広報部員施設訪問記』、その他、研修や行事報告、利用者、職員の声なども掲載し、身近で読みやすい紙面づくりに努めていきたいと考えています。また、今年度より視覚的にも楽しんでもらえるように全面カラー印刷にする予定です。

表紙の写真やタイムリーな話題、頑張っている取り組みなど、皆様からの投稿も広く募集しております。

会員施設の皆様には、日頃より記事や訪問の依頼を快く引き受けていただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。



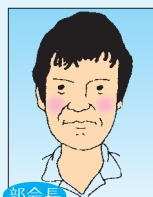
◆記事募集◆

写真・記事などのご応募をお待ちしています。

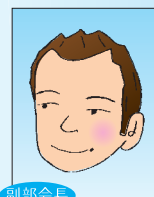
TEL 0771-65-0238 FAX 0771-65-0239 るりけい寮 奥村まで

※配布部数の変更がございましたらお知らせください。

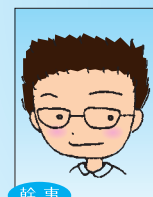
平成22年度京都知福協広報部会 部員紹介



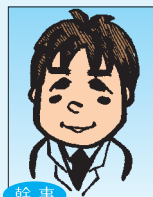
部長
奥村 研也
るりけい寮



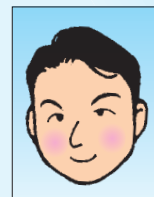
副部長
脇田 宣
ひなどり学園



幹事
寺阪 和博
あしたーる工房



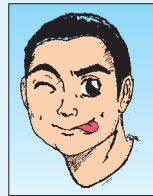
幹事
森 亮
修光学園ディアコニアセンター



山本 信二
あんびしゃ



梶原 泰司
ききょうの杜



田辺 邦彦
京都市大原野の杜



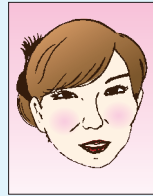
島津 信子
大照学園



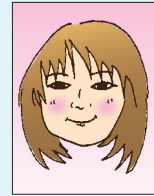
斎藤 正樹
テンドーハウス



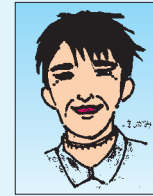
担当副会長
中西 昌哉
ベテスタの家



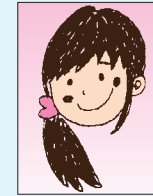
佐久間 幸子
花ノ木医療福祉センター



天野 真弓
ひなどり学園



岸上 昌広
福知山学園三和翠光園



能政 夕記
HOLYLAND